

「あなたの イーハトーブを見つけてませんか」

🍷 企画構成：志村 尚一

🍷 協 力：岩手県立花巻農業高等学校 鹿踊部

🍷 出 演：劇団ぜんとようようくらぶ

花巻市内の小中学生有志とその父母
花巻太陽の子保育園園児



🍷 花巻の先人である宮沢賢治は、自身が思い描いた理想郷を「イーハトーブ」と呼びました。「イーハトーブ」は、みんながしっかりと向き合い、語り合い、理解し合い、力を寄せ合ってつくるマチ。そんな『マチづくり』を一緒に考えるため、賢治の作品に見え隠れする現代社会へのメッセージを、みなさんにお送りします。

◇劇団ぜんとようようくらぶ◇

【プロフィール】

劇団『ぜんとようようくらぶ』は、年齢も職業も様々、いろんな個性が集まって『無限の可能性』に挑戦している、岩手県花巻を拠点に活動する劇団です。

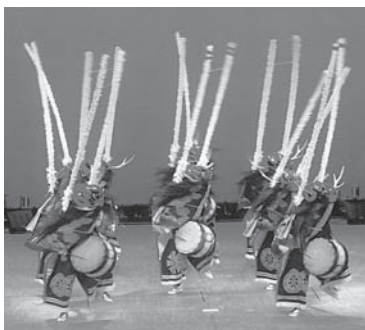
劇団結成から早20年。しばらくは地元花巻を中心に活動していましたが、現在は「魅力あるマチづくり」に燃えている方々からのラブコールにお応えして、北は北海道から南は九州まで遠征公演も行なっております。

私たちはこれからも、『劇団員一人一人がキラめいていける劇団』をモットーに、沢山の人間との『出会い、ふれあい』を大切にしながら、全国各地に『信頼のネットワーク』を築いていきたいとチャレンジし続けています。

【名前の由来】

劇団『ぜんとようようくらぶ』の名称は、読んで音(オン)のとおり「前途洋々」という意味を持つのはもちろんですが、もうひとつ人間の発想(創造力)の分野をつかさどる「前頭葉」を成長させることによって創造的な人生を送ろうという、意味を持っております。

◇花巻農業高等学校 鹿踊部◇



【プロフィール】

花巻農業高等学校は宮沢賢治先生が教鞭を執られた唯一の学校です。賢治先生が作詞された花巻農学校精神歌や敷地内に復元されている賢治先生の家(羅須地人協会)、そして鹿踊部は本校ならではの部活動であり、本校の賢治精神を代表するものです。鹿踊部は昭和33年に発足し、花巻春日流鹿踊と称しています。花巻市東和町落合に伝承されている春日流落合鹿踊保存会(昭49県指定)の方々にご指導を頂いております。

【鹿 踊】

鹿頭(シシガシラ)は権現頭に近い形状で、長いザイと相まって、実に異形の出で立ちです。踊り手は自ら太鼓を打ち鳴らしながら唄い踊る(太鼓踊系)ことにより、勇壮な演舞を行います。鹿踊の起源は流派によって諸説ありますが、特に春日流では奈良県の春日大社の神事に由来し、村の平安を祈願し悪霊を追い払う行事が舞踏化されたものではないか、とされています。

パネルディスカッション

『みんなが主役、本音で語るまちづくり』

一生懸命生きている人は、どんな人でも、
まちづくりに貢献できる天才の一人になれる。

みんなの力を持ち寄って、
みんなのイーハトーブをこさえよう！

豊かな地域社会を形成していくには、「地域の最大の資源である人材をたくさん掘り起こし、いかし合うこと」が大切です。でも、実行するには悩みや苦労が多いはず。

「どうやって人材を発掘したらいいのか？」

「まちづくりの思いをどうやって多くの人に伝えていくのか？」

本気で、本音で、話し合いましょう！

Coordinator

コーディネーター

しむら しょういち
志村 尚一氏

有限会社ウィルビー 代表取締役
劇団ぜんとようようくらぶ代表



昭和29年花巻市に生まれる。

昭和61年、劇団『ぜんとようようくらぶ』を結成。平成6年、総合企画会社『ウィルビー』を設立。平成8年には、岩手朝日テレビ開局記念の全国放送ドラマの総括プロデュースと脚本を担当。また、皇太子ご夫妻ご臨席の「第8回全国農業青年交換大会」の総合プロデュースと記念演劇公演の脚本・演出を務める。

全国各地で「地域活性」「農業問題」「福祉問題」「教育問題」「企業活性」「男女共同参画」「リーダー育成」などをテーマに、年間150回を超える講演・研修会を行なっている。また「地域おこし」のプロデューサー、「人材育成」のアドバイザーとしても活躍。

演劇の手法を使った企画では、これまで「介護保険」「男女共同参画」「健康づくり・いきがづくり」「食農教育」「集落営農」などを題材にした演劇を制作・上演し、全国各地で大好評を得ている。

平成13年9月(株)家の光協会より著書「やるっきゃないさ!」を出版。

Panelist

パネリスト

むるやま たかよし

室山 貴義 氏 倉敷市民憲章推進協議会会長



昭和4年3月生れ。関西中学校・山口経済専門学校卒。昭和22年6月倉敷市役所入庁。昭和40年4月教育委員会社会教育課長（昭和42年2月1日倉敷・児島・玉島三市対等合併）。合併後企画部企画課長、企画部広報公聴課長となり、昭和47年2月1日新市の市民憲章制定の際、担当課長として、市民からの素案(項目)募集。寄せられた251項目の整理、文章化を手がける。以後、企画部次長、市長公室長、市民局長等を経て、昭和62年4月助役に就任し、平成3年3月まで務める。平成3年5月倉敷市文化連盟副会長、平成10年5月倉敷市文化連盟会長就任。併せて倉敷市民憲章推進協議会会長に就任し、現在に至る。若い頃より「作詞」に興味を持ち、レコード会社から発表された歌謡曲約50曲。ほかに音頭・校歌・園歌・合唱組曲等作品多数。日本作詞家協会会員。

おいかわ かずひこ

及川 和彦 氏 水沢まちづくり運動協議会常任理事



昭和3年12月生れ。昭和20年11月真城青年学校指導員等を経て、昭和24年7月真城村役場主事。昭和39年9月市民憲章制定事務局が社会教育課(当時は「教育課」)に設置され、事務担当となり、同年11月市制施行10周年記念式典で市民憲章制定。昭和40年3月水沢市民憲章推進協議会が発足し事務担当となる。昭和44年4月社会教育課長、昭和46年1月水沢市公民館長など、約30年間社会教育を担当、以後秘書課長、総務課長、福祉事務所長を経て、平成元年3月水沢市役所を退職。平成4年10月市民憲章運動推進第25回全国大会を水沢市文化会館(Zホール)で開催、事務担当となる。平成18年2月5市町村合併により奥州市が発足。市民憲章運動を継承する団体として「水沢まちづくり運動協議会」を設立、事務担当となる。現在、水沢地域交流館(アスピア)館長、水沢ユネスコ協会会長、岩手県ユネスコ協会連合副会長、水沢芸術文化協会会長、奥州市芸術文化協会会長、奥州市社会教育委員長、岩手県社会教育連絡協議会副会長、水沢文化振興財団理事、水沢まちづくり運動協議会常任理事、あしたの日本を創る岩手県協議会副会長など多くの職をつとめる。

さいとう ひろみ

齊藤 洋美 氏 花巻市市民憲章推進協議会理事



昭和50年に家族とともに夫の実家である花巻市に移り住み、「兼業農家の長男の嫁」としての生活をスタートさせる。慣れない環境の中で子育てや仕事で困難にぶつかった時、地域活動に誘われ、知り合った仲間からいろいろなアドバイスをもらう。以来、老若男女さまざまな仲間に関われながら、「地域の方々への感謝と御恩返しの気持ちで」楽しみながら地域づくりの活動を行っている。平成15年度岩手県男女共同参画フェスティバル実行委員長を務め、平成16年度岩手県男女共同参画トップセミナーに出演。現在、岩手県総合計画審議会副会長、花巻地域自治推進会議委員、花巻市男女共同参画基本計画検討委員会会長、花巻市民生児童委員協議会副会長、花巻市食生活改善推進員協議会会長等を務める。また、花巻市生涯学習推進出前講師として各地で講演を行っている。